

民族の英雄

小さいマオは自由の路へ と村の子供の歌の文句が
と出發した、クリクには 小さいマオに聞かせる平和
アヒルが……お父さん の町へ……丘を
また、お父さんの、ゲン コツがうなり出すにきまつ
て居る、それで小さいマオ は、話を聞いていた縣城
シアンタ、の町に逃げて行 こうとした、彼はその平和
の町は、はるかむかしの谷 の中に有るものと信じて居
た、小さいマオはそこへい かつて大冒険旅行を開始し
た……

平市で主要食糧供出

優良者、功勞者を表彰

平市に於ける供米は昨年の 年内完遂を目標として進ん
だのであるが、舊平地区は十 二月二十八日石城地方事務
所管内では内郷町に次ぎ第 二位で完遂し、舊神谷地区は
一月三十一日に完遂するに 至つたが市當局では昨年十
月三十一日現在に於ける麥 の供出と共に昨年度産の主
要食糧供出優良者並に功勞 者を表彰する事となり調査
中であつたがこの程調査が 完了したので舊平地区では
二十日午後一時より公會堂 日本間で、舊神谷地区でも
同時に神谷支所に於て表彰 式を行い、舊飯野地区でも近
く表彰式を行う事となつた
被表彰者並に団体は次の通

小名濱電報局の敷地

町警察署の移轉が先決

小名濱電報電話局では郵政 局と分離して局舎の建設を
計畫し敷地を物色中である が適當な敷地が見当たらない
爲め町當局に依頼し町會の 總務委員會によつて敷地を
指定中である、第一候補地
として木田製材所の四百坪
が擧げられ町警察署が第二 候補地となつて居る、木田製
材所は大通りまでの距離が 長いので地下線の引込み等
の工費が多額を要しその工 坪内外の敷地を物色して廳

小名濱便り

小名濱町に於ける土建請負 者は十數名に上つて居るが
工事請負契約から、竣工期 限に至る迄の間に尤も誠意
を以て竣工せしむるものは 殆どない、第三校は格組の
請負で町は百五十萬圓の損 害を見るに至つて居る、元
の女校建築の明東工業の請 負でも、建築に依る損害が百
萬を數え、建築と來ると何 れも損害を見せて居る、隨
つて請負者自身も損害を見 てる事論がない、草野道
人氏の運管せる磐城土建の 請負つた、高等學校第一期
の請負者、鈴木組などは期日 と大變に遅れずに完成して
居るなどは珍らしいとされ てる

石油タンク建造計畫

小名濱の發展に期待

小名濱町の港灣としての將 實現すれば小名濱港の發展
來性に期待し永久的に重油 タンクの建設を計畫してい
る、石油製品販賣店は現れ ず、本社が米國シェル會社
株式會社であるが從來小名 濱町には僅かに西九石油製
品販賣店に任じてあつた、 名の外に女子を二十名入學
するのであるが小名濱の發展 集條件としては△女生徒の
兩面に對つて行はんとす、 みに使用される特定の設備
もので西九油店を基礎とし、 めない△女子だからと特
別取扱はしない△女教師
の事となり町當局の諒解を は任用しない等の事が發表
得て敷地を物色中である

石城連合青年會

三月四日辨論大會開く

石城郡連合青年會では來る 席青年の熱情をかたむけて
三月四日午前九時より石城 辨論を擧ぐることになつた
地方事務所前において辨論大 終了後委員會を開き二十六
日午後、各町村の青年會 年度の郡青年連合會の財政
面を協議する

出火お詫び

二十二日午前八時二十五分 出火の際は
早速お駐付消火に御協力下さり大事に至
らず鎮火致しまして有難う御座居ました
茲に紙上にてお詫びかたぐ御禮申上げ
ます
平市佃町三九 森田 キク

近火見舞御禮

平市佃町 電話九四六番
川村材木店
川村 武
川村 乙代
佐川 榮太
石川 藤正
鈴木 治七
平製靴工業株式會社
平市佃町三九 電話一〇八八番

飲食 柳 小名濱 八二五電 前局本市平
川村材木店
川村 武
川村 乙代
佐川 榮太
石川 藤正
鈴木 治七
平製靴工業株式會社
平市佃町三九 電話一〇八八番
近火見舞御禮
平市佃町 電話九四六番
川村材木店
川村 武
川村 乙代
佐川 榮太
石川 藤正
鈴木 治七
平製靴工業株式會社
平市佃町三九 電話一〇八八番
出火お詫び
二十二日午前八時二十五分 出火の際は
早速お駐付消火に御協力下さり大事に至
らず鎮火致しまして有難う御座居ました
茲に紙上にてお詫びかたぐ御禮申上げ
ます
平市佃町三九 森田 キク

女左膳
歌の爆弾
化文平
川路龍子 伏見直江 江川宇禮雄
伊豆 肇 清川莊司 香川京子
發音痛快新東寶時代劇巨篇!!
男裝の麗人川路龍子の女左膳怒も
鬼氣を呼ぶ響鳴無刀流の構え